



新時代の働き方

『ハイブリッドワーク』に最適なオフィスとは

we work

目次

新時代の働き方、ハイブリッドワークの利点と課題	3
新時代の働き方は、ハイブリッドワークが主流に	4
ハイブリッドワークの定義とその手法	5
ハイブリッドワークの利点	6
ハイブリッドワークの課題	7
ハイブリッドワークの実現に最適？フレキシブルオフィスとは	8
フレキシブルオフィスとは	9
フレキシブルオフィスの利点	10
フレキシブルオフィス選び4つのポイント	12
フレキシブルオフィスなら WeWork	13
ハイブリッドワークにおすすめの WeWorkプラン	14
WeWorkのワークスペース例	15



新時代の働き方、 ハイブリッドワークの利点と課題

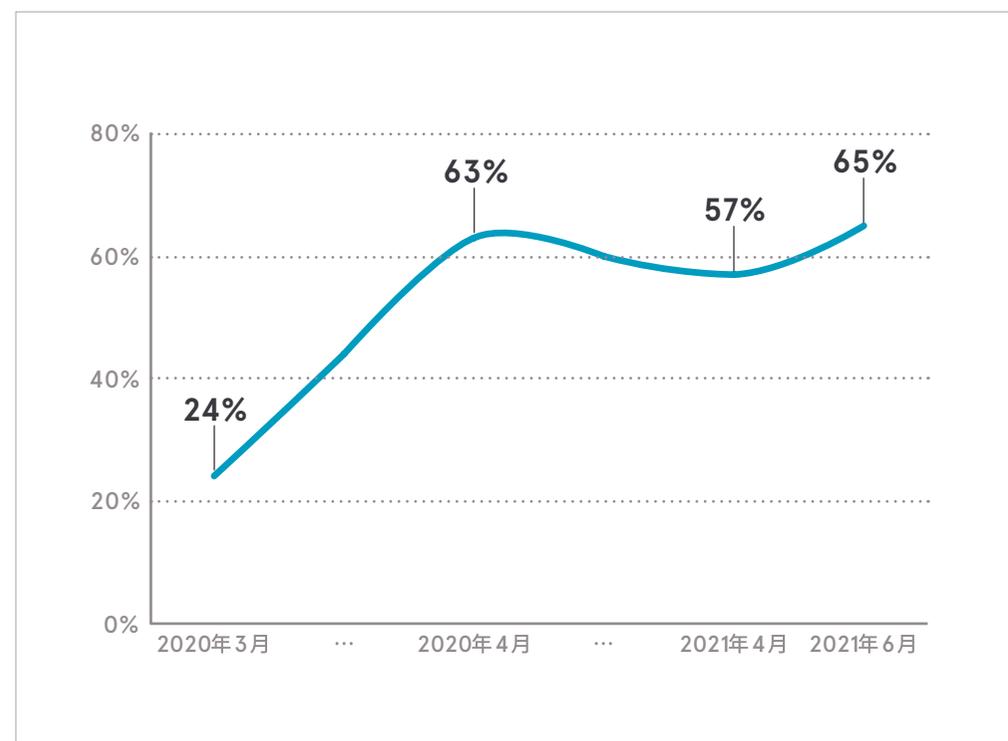


新時代の働き方は、ハイブリッドワークが主流に

2020年3月に24%だったリモートワークの普及率は、新型コロナウイルス感染症の流行により、2020年4月に63%まで増加しました。WeWorkでは、パンデミック収束後にこのトレンドがどのように変化するかを調査しました。

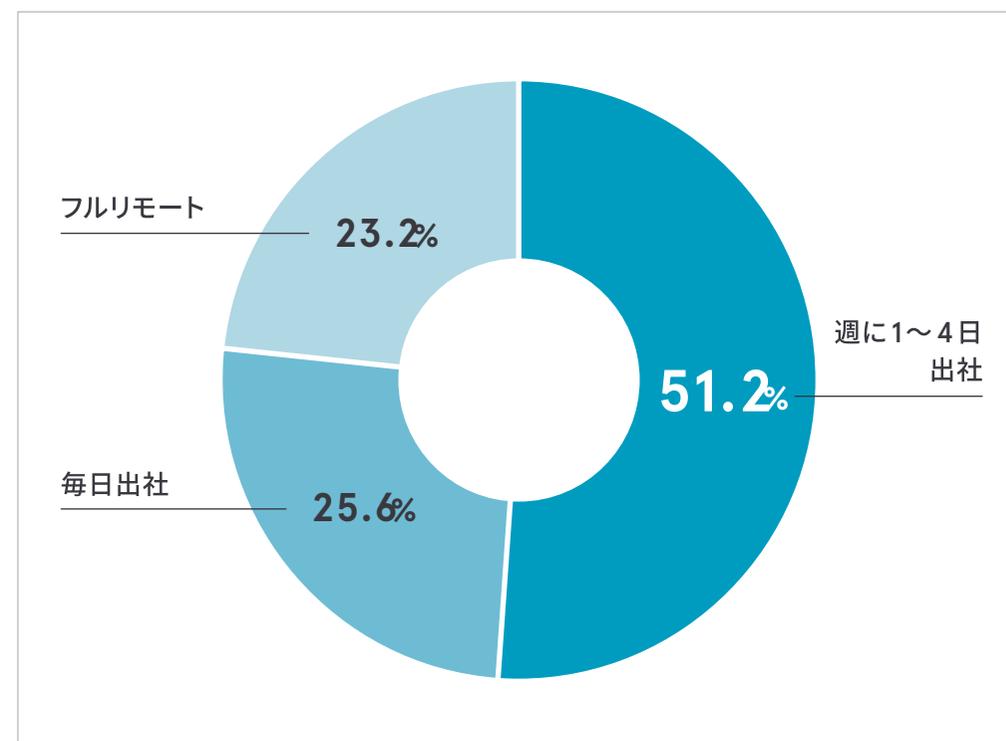
その結果、**従業員の2人に1人が、オフィスとリモートワークを組み合わせたハイブリッドワークを望んでいる**ことがわかりました。

リモートワーク普及率の推移



出典：東京都「テレワーク導入率調査結果をお知らせします！8月の調査結果」
[https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2021/09/03/09.k\(参照 2021-09-2\)](https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2021/09/03/09.k(参照 2021-09-2))

従業員のオフィス出社意向



[WeWork調べ]
調査実施時期：2021年7月28日～7月30日
調査対象：従業員数20人以上の企業に勤務している、20代～60代男女
サンプル数：1,000名（人事関連担当者500名・一般従業員500名）

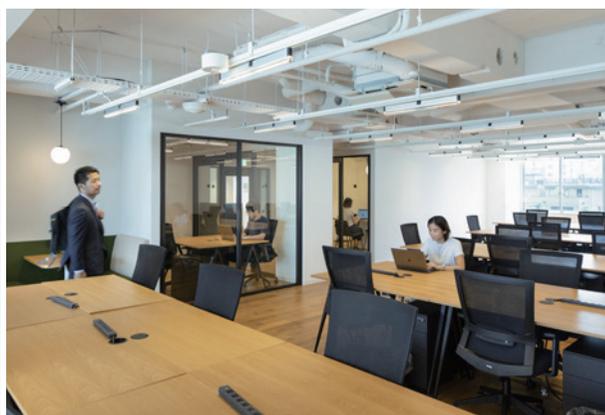
ハイブリッドワークの定義とその手法

ハイブリッドワークとは、**オフィス勤務とリモートワークを組み合わせた働き方**です。

その方法は、出勤率や出勤日を会社側で定めるものから、部署ごとや従業員ごとに選択できるものなどさまざまです。

国内外問わず、パンデミック収束後もハイブリッドワークを継続する意向を示す企業が増えています。

働き方のイメージ



ハイブリッドワーク実施方法の事例

大手IT企業A社

- ✓ エンジニア部門のみ原則週5日出社
- ✓ その他部門は原則週1日出社
- ✓ 週1出勤の社員には、サードプレイスを用意

大手人材企業B社

- ✓ 完全リモートワークから週5出勤まで、出勤率A～Dの4段階を従業員が選択し、会社に申請
- ✓ 四半期に一度見直し、再申請を行う

メガベンチャーIT企業C社

- ✓ 週1日出社のみ義務化
- ✓ 週2日以上出勤率・出勤日に関しては部署ごとに選定

ハイブリッドワークの利点

ハイブリッドワークは、オフィス勤務とリモートワークのよい部分を組み合わせた最適な働き方が可能なため、さまざまな利点があります。代表的なものとしては下記が挙げられます。

ハイブリッドワークの主な利点3つ

1 オフィスコストの削減

従来のように100%出社を前提とする本社が必要でなくなるため、オフィスコストを大幅に削減することが可能になります。

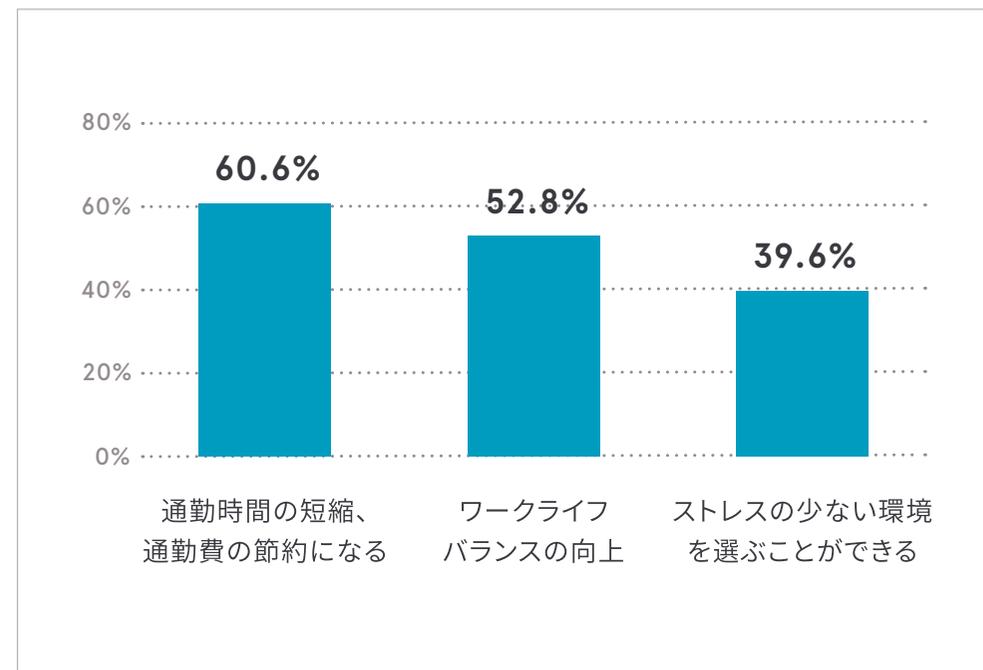
2 従業員満足度の向上

不必要な通勤時間の削減や、従業員自らが働く場所を選択できることにより、従業員満足度の向上に繋がります。

3 優秀な人材の採用

就職・転職活動において、ハイブリッドワークの可否を重視する人が増えているため、優秀な人材の採用機会損失を防ぐことができます。

従業員がリモートワークに満足している理由



[WeWork調べ]

調査実施時期：2021年7月28日～7月30日

調査対象：従業員数20人以上の企業に勤務している、20代～60代男女

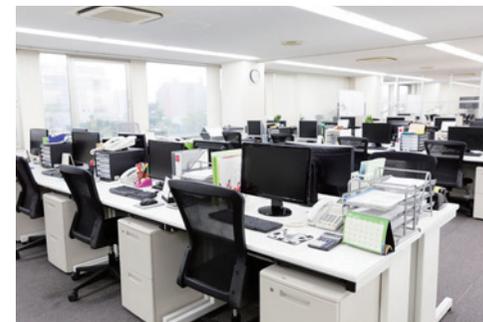
サンプル数：1,000名（人事関連担当者500名・一般従業員500名）

ハイブリッドワークの課題

一方、ハイブリッドワークを効率的・効果的に実施するための課題が浮き彫りになってきています。

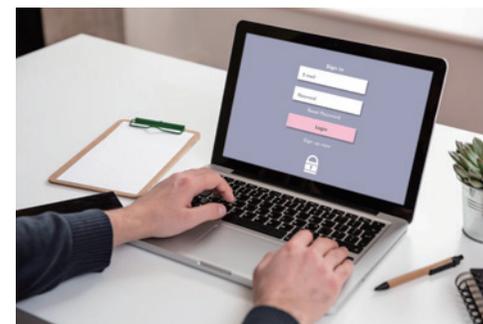
1 オフィス運用の課題

ハイブリッドワークには、本社を縮小しコストを削減できるという利点があります。しかし、数年後の入社率の変動が予測できないという課題があります。適正な床面積を見誤って縮小移転を行うと、短期間で再度移転の必要に迫られるリスクもあります。



2 セキュリティ面での課題

自宅や、カフェやホテルなどの公共施設でリモートワークを実施する際、セキュリティの担保が課題となっています。周囲への会話漏れや、公共のネットワークシステムを使用することによる情報漏洩のリスクが考えられます。



3 モチベーション面での課題

リモートワークを自宅で行う際の、精神面の課題も明るみになっています。たとえば、モチベーションの減少・閉鎖的な空間で仕事をすることによる負担を訴える従業員が増加しています。



ハイブリッドワークの実現に最適？ フレキシブルオフィスとは



フレキシブルオフィスとは

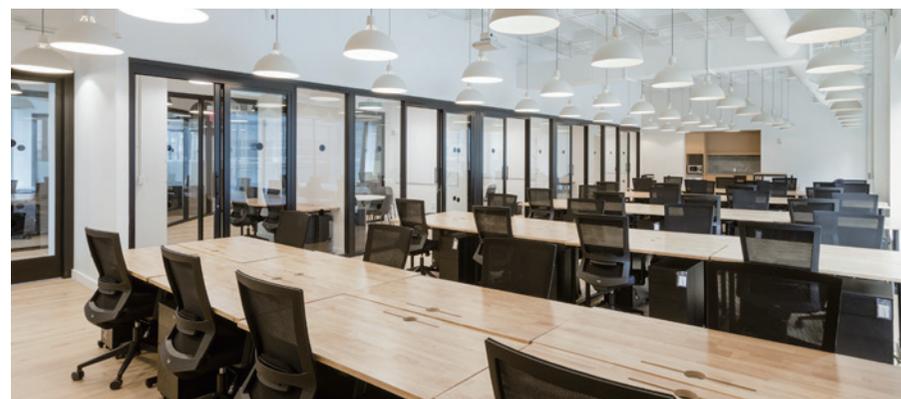
ハイブリッドワークが一般化するにあたり、フレキシブルオフィスへの注目が高まっています。その理由は、課題を解決し、効率的・効果的にハイブリッドワークを実現できることにあります。フレキシブルオフィスとは、その名の通り**柔軟な契約形態を持つワークプレイスの総称**です。大規模の専有個室を柔軟に契約できるプランもあり、新しい働き方に合わせた上場企業の本社移転も増えています。

フレキシブルオフィスと一般的な賃貸オフィスの代表的な違い



一般的な賃貸オフィス

- 数年単位の契約
- 床面積は固定
- 定期借家契約の場合原則解約不可
- 内装工事・インフラ設備を別途手配
- 契約区画のみ利用



フレキシブルオフィス

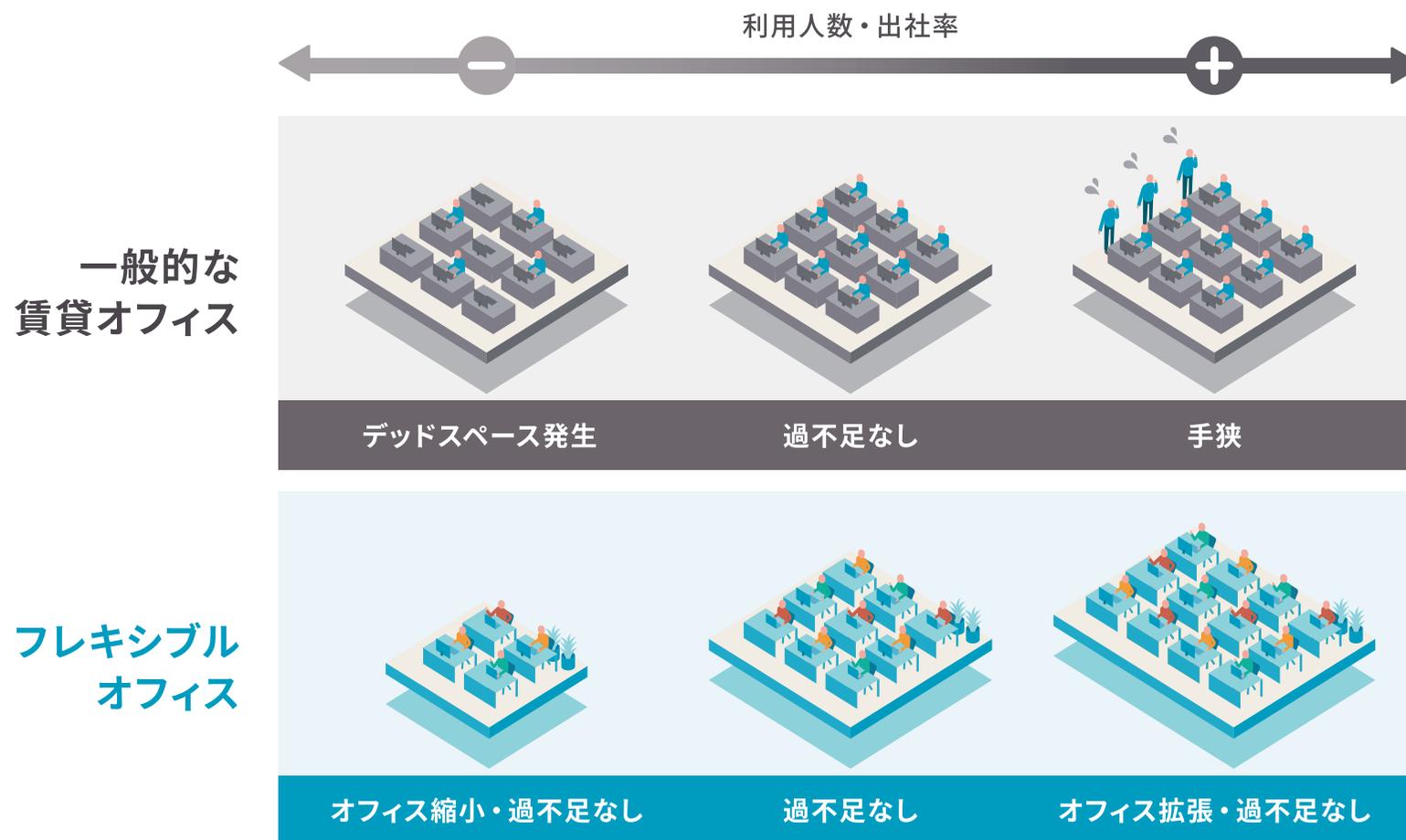
- ✓ 月単位～の契約
- ✓ 柔軟に床面積の拡大・縮小が可能
- ✓ 短い解約予告期間
- ✓ 内装・インフラ設備を完備
- ✓ 複数拠点を利用可能*

* サービス・プランにより異なります。

フレキシブルオフィスの利点 ①

フレキシブルオフィスなら、最短翌月から個室の拡大・縮小が可能です*1。

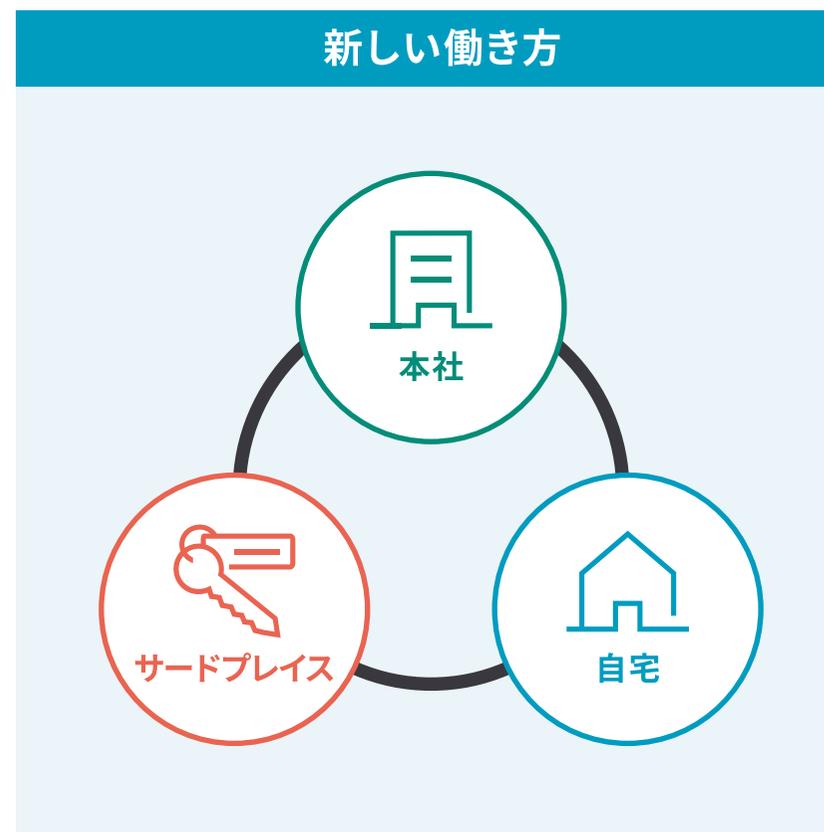
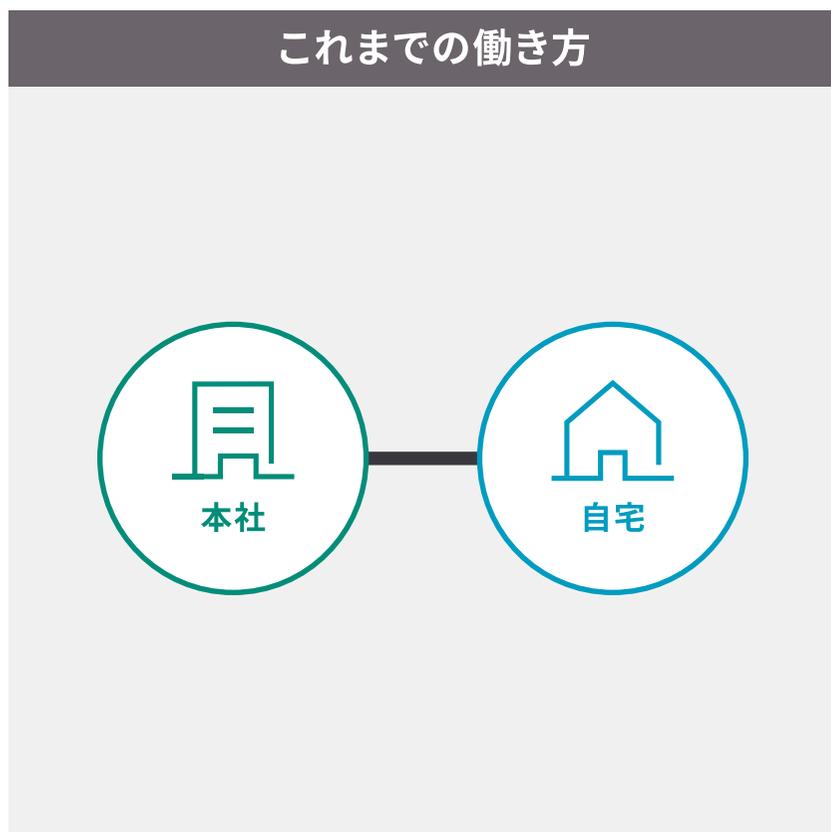
最小で1名1か月単位*2から契約が可能のため、先が読めない状況でも、**出社率に合わせた効率的なオフィス運用が可能**です。デッドスペースは削減したいものの、最適な本社面積が予想できないという課題を解決することができます。



*1 専用オフィスの空室状況により、ご要望に添えない場合がございます。 *2 契約内容や利用人数によって最短契約期間が変わります。

フレキシブルオフィスの利点 ②

複数拠点を自由に利用できる*フレキシブルオフィスなら、従業員の**自宅や営業先近くに、快適なサードプレイスを設置**できます。オフィスに必要な機器やサービスが行き届いた空間で、モチベーションや生産性を高くリモートワークを行うことができます。また、ネットワークやスペースのセキュリティ管理も充実しています。



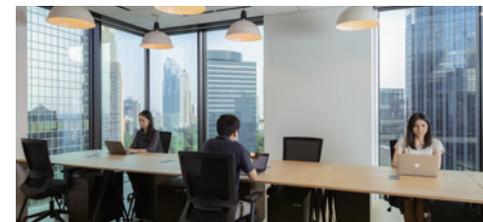
*サービス・プランにより異なります。

フレキシブルオフィス選び4つのポイント

ニーズに合った最適なフレキシブルオフィスを選択するために、確認しておきたいポイントを4つご紹介します。

1 個室のサイズ

用途にあった個室サイズの有無を確認しましょう。小規模サイズのフレキシブルオフィスでは、従業員数や出勤率によっては利用できる個室がない可能性があります。



2 共有スペースの充実

会議室や電話ブース、ラウンジなどの共用スペースの数や広さを確認しましょう。これらを利用することで、個室の契約面積が抑えられ、コスト削減に繋がります。



3 複数拠点の利用

従業員のリモートワーク環境としてフレキシブルオフィスを検討する場合は、複数拠点を利用できるプランの有無を確認しましょう。



4 立地・オフィス環境

アクセスのしやすさやビルグレードはオフィス選びで重要な要素です。また内装デザインは、従業員満足度に影響しますので、意識して確認しましょう。



フレキシブルオフィスなら WeWork

WeWork は、すべての人がいきいき働く環境と、

効率的なオフィス運用をかなえるフレキシブルオフィスです。

WeWork は、大規模サイズの個室を有する、数少ないフレキシブルオフィスです。

効率的なオフィス運用によるコスト削減はもちろんのこと、駅近のハイグレードビル、開放的で創造性を刺激する内装デザイン、常駐のコミュニティスタッフによる、従業員満足度の高いオフィス環境が特徴です。



Flexible (柔軟な契約)

- ✓ 1~1,000名規模の個室
- ✓ 最短翌月からサイズ変更可能
- ✓ 効率的な運用でコスト削減



Accessible (便利で快適)

- ✓ 駅直結のハイグレードビル *1
- ✓ 全国約40拠点を利用可能 *2
- ✓ 常駐のコミュニティスタッフ



Inspirational (成長を加速)

- ✓ 創造性をかき立てるデザイン
- ✓ 開放的で集中力を高める空間
- ✓ 入居企業とのコラボレーション

*1 拠点によって異なります。 *2 プランによって異なります。

ハイブリッドワークにおすすめの WeWork プラン

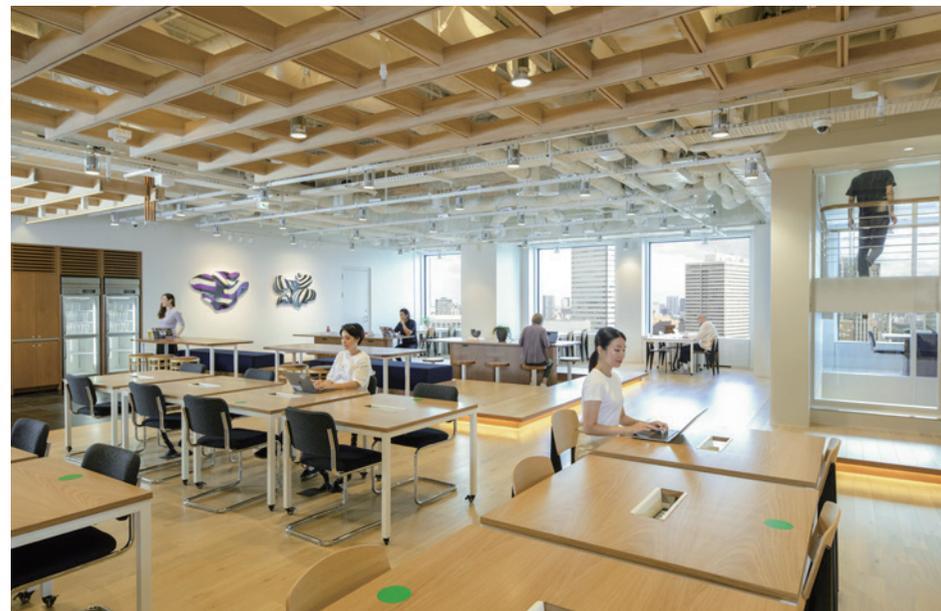
ハイブリッドワークには、『専用アクセス』と『オールアクセスプラス』を組み合わせたプランが人気です。



本社に最適な『専用アクセス』

- ✓ 専用の個室オフィス
- ✓ 契約席数 < 利用人数 (例: 本社100席を、従業員300名で利用)
- ✓ 本社サイズを最小限に抑えることが可能。
- ✓ 出社率の変動に合わせ、最短翌月から拡大・縮小も。

*利用人数や利用時間、料金などはお問い合わせください。



サードプレイスに最適な『オールアクセスプラス』

- ✓ 全国7都市約40拠点以上の共用エリアを利用可能。
- ✓ 光が差し込む、開放的な空間。
- ✓ 高速Wi-Fiやセキュリティ、フリードリンクなどを完備。
- ✓ Web会議や集中タイムに適した電話ブースも。

WeWork のワークスペース例

WeWorkは、1~1,000名規模の専用オフィスに加え、多彩なワークスペースを完備。創造性をかきたてる開放的な空間から、集中力を高める1名用のブースなど、用途に合わせて最適な環境を使い分けることにより、生産性の向上につながります。



*1 専用オフィス契約の場合。 *2 会議室は毎月付与するクレジット(ポイント)を消費して予約できます。

Thank you.

オンライン相談・お見積り・内覧予約はこちら



contact@wework.co.jp



050-1742-2028



<https://wework.co.jp/>

まずはお気軽にご相談ください。オンラインでの内覧、お見積りご相談も受け付けております。